

研究室配属実習レポート

学籍番号

氏名

今回の3週間にわたる研究室配属で、様々なことを経験できた。中でも、特に印象に残った出来事が1つある。自分は、この出来事を通して大切なことを学べたと思う。

その出来事とは、プラスミド精製の際に、誤った使用をしたことによって、1000 μ l用のピペットを破損してしまったことである。これは、今までの生化学実習等で、自分が不器用であることを言い訳にして、実験操作の上手な人の操作を見ておくだけで、自分では積極的に実験操作を行わないことが多かったことに起因する。ピペットを破損した時、時間的に余裕のない実験操作を行っていたため、生化学実習等でピペットを扱う実験操作を経験したことのある人であれば当然知っている、基本的なピペットの使用法を聞く暇がなかった。このため、実験慣れしていない自分はピペットを誤って使用してしまい、ピペットを破損するだけでなく、実験そのものが継続できなくなった。

この経験から、実習の操作方法などは、実際に自分でやって初めて身につくものだと痛感した。今回、自分が犯したミスによる実害は、ピペットの破損とプラスミド精製の実験の中止といった取り返しのつくもので済んだが、もし医療現場で医療機器の操作を誤った場合、取り返しのつかないことが起こることは十分考えられる。なので、今後は実際に操作を行える機会がある実習等には積極的に参加するようにして、将来医師になって医療現場に臨んだ時に、正しい医療機器の操作法などを確実に身につけていられるようにしたいと思った。

3週間にわたる研究室配属期間中、このピペットを破損した出来事を通して学んだこと以外に、桑迫先生が自分たち学生を丁寧にご指導して下さったおかげで、学べたことが多くあった。例えば、桑迫先生は実験を行う前に、必ず実験の原理を詳細に説明して下さったが、それにより、何の実験を行っているかを理解せずに臨んだ2年生の頃の生化学実習等と比べ、実験をスムーズに行えたことから、実験において自分が行っている操作の意味を知ることの重要性を認識できた。特に、桑迫先生の粘り強いご指導によって、研究室配属当初と比べて、ピペットマン等の器具の扱い方などが自分でも分かるくらい上達したことで得た自信は、今後、実習等を行う際に自分にとって良い方向に発揮されると思うので、この研究室配属で得た大きな成果であると考えている。この他にも、英語論文の読み方や重要性を教えて下さったりしてもらい、この研究室配属は本当に有意義なものとなった。将来臨床にしか興味のなかった自分が配属された、第5希望の基礎研究中心の研究室で、このように多くのことを学ぶことになるのは、当初は全く思わなかった。

最後になりましたが、この研究室配属という場を提供して下さった加藤先生、何かと自分たちの実習をサポートして下さった研究室のスタッフの皆様方、そして自分の実験を中止してまで、自分たち学生の実験を親身になって指導して下さった桑迫先生にお礼申し上げます。3週間本当にお世話になりました。